

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム団欒
(ユニット名)	A ユニット
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市梅田町
記入者名 (管理者)	今泉 泉
記入日	平成 20年 11月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	団欒(両ユニット共通)の理念は、「もっとやさしく、もっと温かく…」である。	○	今後とも、この理念をモットーに向上心あふれる事業所を目指す。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(朝、申し送り時に理念を全員で復唱し、新たな気持ちで業務に就いている。	○	理念に則した月間目標を掲げている。具体的な目標を掲げるようにして、理念の実践にむけて一歩一歩近づくようにする。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方には理解してもらっていると思うが、地域の方までには至っていない。	○	家族様・地域住民の方々へ向けて情報発信を行う。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や通勤の際に、挨拶を交わす程度の関係にしか至っていない。	○	隣近所の施設の行事を見学に行ったり、商店へ買い物に行ったりするなど交流をもっと多く行い、家庭的な事業所として親しみをもってもらえるようにする。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の方や近隣の保育園との交流(町内夏祭りや敬老会などのホーム行事など)を多く行っている。	○	行事の際だけでなく、地区清掃や火の用心夜回りなどを行い日常的な交流を行うようにする。

グループホーム団楽 Aユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>民生委員の方や地域の学校関係者などを見学説明会に招待するなど、高齢者が多様なサービス選択をできるように支援している。</p>	○	<p>地区老人会などへの出席をするなど、迎えるだけでなく、こちらから出向く機会を多く持てるようにする。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価を職員全員で行っており、意義についても説明しているが、十分に活用できていない。</p>	○	<p>管理者など指導的立場にあるものは各職員からの疑問点や目標などを聞くようにし、各人の自己評価に合わせて助言をする。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>1回/偶数月に運営推進会議を行っている。その時の出席者から様々な意見を寄せてもらっているが、その意見を反映した取り組みはできていない。</p>	○	<p>家族会の開催や利用者との団体旅行などを行う。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>食中毒・感染症対策について、市の職員へ要請し、講習会を行うなどの取り組みをしている。</p>	○	<p>他の講習会を要請するなど、もっと多く市職員と協働できるように努める。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>左記の事業や制度について、個人的に学ぶ職員はいるが、全体としては行っていない。</p>	○	<p>必要に応じて、全体で学習できる機会をつくるように検討する。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束や虐待についての勉強会をおこなった。</p>	○	<p>虐待や過度の行動の抑制を感じとれる場合は、速やかに対処を行う。</p>

グループホーム団欒 Aユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ際は、別室にて、また利用者や家族様などの時間にゆとりが十分にとれる時に行っている。</p>	<p>○</p> <p>契約時だけでなく、利用開始以前においても十分に説明ができるようにする。(電話などでの問い合わせについての受付対応を職員全員ができるようにする。)</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の抱える不満・苦情は家族等より担当職員やホーム役職者、また関連事業本部(別所在地)へ寄せていただいている。</p>	<p>○</p> <p>利用者ならびに家族の意見を前向きにとらえ、実り多いものにする為に、家族会などを家族同士で作成していただける機会があれば、それを支援する。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>左記のような利用者の個人的な情報提供が必要な方には、管理者を含む役職者が主に行っている。</p>	<p>○</p> <p>役職間での情報伝達の行き違いやミスなどないように、今後とも心掛ける。また、個人情報認められる範囲の暮らしぶりや職員の情報などを載せた「団欒新聞」を定期的に発行する。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の抱える不満・苦情は家族等より担当職員やホーム役職者、また関連事業本部(別所在地)へ寄せていただいている。</p>	<p>○</p> <p>利用者ならびに家族の意見を前向きにとらえ、実り多いものにする為に、家族会などを家族同士で作成していただける機会があれば、それを支援する。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>2回/月運営者を交え、会議、勉強会を行っている。また日常的にも、管理者を通して運営者に職員の意見や提案を伝えるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>今後も、前向きな意見や提案を多く引き出すような環境や機会づくりに努め、柔軟な運営に活かす。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事や外出、受診付き添いなど、あらかじめ予定が分かっている日や時間に職員配置を厚く調整している。</p>	<p>○</p> <p>パート職員も含め全職員が、起こりうる急な変化に備えて柔軟に対応できるようにする。勤務変更が必要な時は、職員へ再度説明する。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>やむを得ない事情の場合に努めている。また利用者や家族への配慮は十分にしている。</p>	<p>○</p> <p>仕事や利用者に対する考えや想いに職員間で差異が出ないようにし、職員の異動は必要最低限に止める。</p>

グループホーム団欒 Aユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者と管理者が委員を選出任命し、事業所内外を含めた研修に係ることを全般に支援している。研修委員は企画・調整・連絡業務を主に行っている。</p>	○	<p>利用者本意のサービス提供を行うことを旨としている。また全職員が実りある研修を受けられるためにも、段階的な計画のもとに研修機会を確保する。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修など同業者が多く集う機会に積極的に関わるように支援している。また利用者の個人的な関係を通じて、知り合いになれた事がある。</p>	○	<p>利用者に対し、より良い支援を行う事を旨とし、職員が色々な側面から人物や物事を見れるように、たくさんの人と関わる事を支援する。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>勤続年数の段階に分けて研修旅行を行うなど、福利厚生に積極的に関わっている。</p>	○	<p>利用者への処遇を維持向上させる事を前提として、(部活動や交流会など) 職員のストレス軽減のための様々な取り組みを行う。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>法人内に多く事業所を持ち、各事業所に役職をもうけている。各管理者が職員の状態をみて必要なアドバイスなどを行っている。</p>	○	<p>管理者を含めた従業員の自己評価と管理者からの評価などを基に人事管理や評価をしている。勤続年数や職能を考慮した研修機会をもうけるなど、様々な形で職員のやる気を応援する。</p>
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に訪問調査を行っている。契約時にも十分に話を伺うように努めている。</p>	○	<p>これまでの生活を維持・継続できるように、または困っている事を改善できるように、事前にもっと情報を集める。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約時などの際には、家族の同意も頂くようにしている。</p>	○	<p>もっと深く利用者や利用者家族の身になって介護できるように精進する。</p>

グループホーム団欒 Aユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援計画書をつくる際は、要望を具体化して、状況に応じては介護過程に優先順位をつけ、段階的に目標を達成する旨の説明をおこなっている。	○	当ホームで出来ないところは、家族等に協力してもらうなど、家族等と支えあいながら介護を行うことを大切に考える旨、契約時など相談受付時に行う。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症対応型通所介護や、空室がある場合の短期利用(ショートステイ)など在宅であっても利用できるようにしている。	○	まず見学や通所事業の利用を勧めて、利用する上で混乱がないような支援や係りかたを行う。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活全般を通して、「生活の知恵」や「困難な状況にも負けない精神」を学ばせていただいている。	○	もっと深く利用者の身になって介護できるように精進する。研修などで他のホームとの交流を持つことで、利用者の立場から見た印象を持ち帰り、必要な業務改善に取り組めるようにする。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事などに参加を募り、業務上で困っている時などは、隠すことなく家族に報告、連絡、相談することになっている。	○	日常的な交流をもっと多くし参加を募る。家族愛あふれるホームづくりを目標とする。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	連絡先(人物)を複数伺い、利用者との関係を理解した上で、利用者が一番に望まれる方へ連絡をとるようにしている。	○	面会など関わり方が薄い方へも、利用者の支障がない限り面会を募るなど、関係復旧へ積極的に支援する。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教会のミサへの送迎など、宗教上の習慣も支援している。	○	利用者様の大切にしていた習慣や人間関係について、もっと情報収集を行う。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常的に利用者同士が良く話をされている。しかし、口論も時間帯や日によって起こる場合があり、常に見守りが必要である。	○	口論などの問題が多い時間帯に、職員配置を多くするなどの工夫を行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長く入院される方へお見舞いに行ったり、退居後も連絡をとるなど、関係を継続するようにしている。	○	連絡したことの記録を残すなどをするなど、退居後のケアマネージメントを意識する。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン、アセスメント用紙を改新して、できるだけ利用者の要望に沿った生活を支援するようにしている。またその勉強会を何度も行っている。	○	生活目標支援プランを十分に活用できるように、工夫・改善を継続して行う。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや調査表を用いて、家族等より生活に必要な情報を聞くようにしている。	○	介護計画作成時など、定期的な見直し・情報収集を行う。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	会話した事や生活の様子、心身状態をケース記録・業務日誌に記入している。	○	記録を詳細に書くなど、利用者の状態を分かりやすくする工夫を行う。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員間で話し合って作成している。また、主治医などの意見も取り入れている。	○	さらに、話し合う機会を作り、利用者本意の介護計画とするようにする。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体機能や生活環境が変化が生ずる場合は、速やかに介護計画を見直す話し合いを行っている。	○	話し合った内容を記録するなどし、介護計画の内容を現況に即したものにす。

グループホーム団欒 Aユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に、気づきなどの工夫が少ない。口頭による申し送りと申し送りノートの確認を毎朝行う事で、情報の共有はできている。	○	個別記録の質の向上を図る工夫をする。また介護計画作成時など、定期的な見直し・情報収集を行う。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	市内には、小規模多機能ホーム、有料老人ホーム、また他3ヶ所のグループホームなどが関連事業にある。	○	2回/月の各ホームの連絡会義を行っており、情報を共有するようにしている。その他、普段からの交流支援や合同行事などを行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事などに民生委員や町内会役員、近隣の保育園の方々を招待するなどして交流している。また消防局へ訓練場所として、ホームを開放するなど行った。	○	地域の学校から実習生・研究生の受け入れ、ボランティアの受け入れなどを継続して行う。また要望に応じて、こちらから出向く事も行うように努める。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	住み替えなどの要望、また必要性がある事例は現在までない為、支援していない。	○	必要に応じて、(短期入居利用契約時などにおいて)情報伝達を十分に行うように努める。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、運営推進会議以外での協働活動はない。	○	必要時に備えて、交流を深めながら知識を深めるように努める。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外でも利用者・家族等が納得する医療機関を使っている。また家族等にも協力してもらいながら、利用者と主治医の関係を断ち切らない支援も行っている。	○	利用者の状態観察をもっと詳しく行える手段を考え、実践する。

グループホーム団欒 Aユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>特に介護保険認定申請時において、生活習慣や特記事項などの項目を含む資料を活用して主治医との情報共有を行っている。</p>	○	<p>取り扱う情報を、もっと具体的に、もっと詳しくする。</p>
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>1回/週の訪問看護の他、随時連絡できる体制ができている。また関連事業内の看護・介護スタッフによる「看護と介護の協働」についての研修会を行った。</p>	○	<p>研修会で話し合った事を実践現場で活かすための連絡訓練などの取り組みを行う。</p>
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院期間中には、お見舞いを兼ね出向き、利用者状態を把握するようにしている。それを基に、医療関係者や家族と早期退院へ向けた話し合いを行っている。</p>	○	<p>利用者本人、家族、関係者などの方々が安心して退院できるような環境づくりを行う。(病気やリハビリについての職員理解を含む)</p>
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>主治医の行う病状説明を家族と共に聞くようにしている。また看取りについても利用者本人・家族等の意思を尊重した話し合いを行いを行っている。</p>	○	<p>事業所の「看取りに関する指針」を説明する機会を必要時に応じてつくる。</p>
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>病状説明の申し送りは行っている。スタッフ全員が、今後の変化に備えた検討・準備が十分に出来てとは思えない。</p>	○	<p>重度化・終末期に対する本人・家族・スタッフの不安を緩和できるような勉強会を行う。</p>
<p>49</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>利用者の生活暦や環境の変化に対する気持ちを踏まえて、住み替えについての相談に応じている。</p>	○	<p>利用者が望む生活に出来る限り近く、また家族の家庭内介護の負担を軽減できるような介護計画を作成する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>特に排泄誘導などの声かけにおいて、各個人の誇りを大切にしたりした方法を行っている。また名前の呼称については、敬意を払う事を基本事項としている。</p>	<p>○</p> <p>申し送りの際などに、本人が聞いて嫌な思いをさせないような場所や申し送り事項、方法に配慮する事を継続する。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>急な外出などの希望・要望が実現困難なことであれば、外出の日程や目的地などを本人と担当職員が一緒になって決め、その外出を日々の暮らしの中での楽しみとなるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>例えば、外出支援が要望にあり、身体機能の低下が外出をする為に困難な理由にあるならば、(機能訓練をなど)活動についての自立支援を行う説明をする。利用者本意の生活のために総合的な支援を行う。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の一日の流れは決めていないが、職員間に決まった業務分担意識があるため、利用者の生活への影響と見受けられる時がある。</p>	<p>○</p> <p>『生活目票支援プラン』(介護計画)にあわせた業務改善を行い、利用者1人ひとりの「普通の生活」を支援できるようにする。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>一緒に服を選んだり、行きつけの理髪店に本人と話し合い、行く日を決めている。</p>	<p>○</p> <p>もっと多くの利用者の生活に関する情報を集める。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事を共にして、一人ひとりの好みを観察するようにしている。</p>	<p>○</p> <p>料理の注ぎ分けや配膳だけでなく、簡単な調理や片付けを一緒に行い、利用者が食事を楽しむ支援する。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の状態に合わせて、喫煙や飲酒の量を調整している。</p>	<p>○</p> <p>嗜好調査や普段の食事の食べ残しなどから汲みとるようにする。</p>

グループホーム団欒 Aユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりに合わせた排泄の介護をするようにしている。尿意・便意のある方、または排泄間隔がつかめる方は、共用トイレまたポータブルトイレへの自然排泄を促す支援を行っている。	○	現況に即して介護計画の見直し、検討を十分に行い、介護計画の目標が実現できるように支援する
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴希望を聞き取り、希望者は入浴できるように行っている。しかし十分な利用者本位の入浴支援はできていない。	○	介護側の人的問題や業務改善を行い、利用者本意の入浴支援を行うことを目標としている。希望を表出できない方への配慮も課題とする。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	意思表示ができない人へも、その方にとって良い状態を考え支援している。	○	生活習慣などからも十分に検討して、利用者本意のサービス提供を行う。
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	特別な援助として、教会ミサや学会などへの参加などの外出支援を行っている。日常的には、洗濯物たみや料理のは盛り付け、配膳など、できる事を積極的に支援している。	○	ホームの中で、日常的に行う事(レクリエーションなど)、特別な機会(誕生日会など)をもっと多く企画して、暮らしの中での楽しみ事や目標をもてるようになる支援を行う。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理ができる方は所持できるようにしているが、現在はされていない。外出時など、本人が希望される物などは自由に使えるように生活費や雑費を預かっている。	○	おつかいを受けたり、計算などを日常的に行ってもらうなど、一人ひとりのできる・したい事を維持する支援を行う。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	犬の散歩や近隣の公園への散歩や玄関先での日光浴を行うことを支援している。急な遠出などの要望には、存分に対応できていない。	○	現状のケアを継続して行う。園芸などの趣味への支援も行う。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	映画や外食などの要望に副って外出支援を行っているが、十分には出来ていない。	○	日常で行う会話の中で、たくさんの要望をくみ取り。家族様と連絡調整などを行い、支援する。

グループホーム団欒 Aユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される時には、自由に電話していただいている。難聴の方は、職員が代わって電話する事もある。手紙について希望されることがない。	○	希望者以外の家族・知人についても、毎月ホームから便りを出すなどを継続して行う。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	夜21時まで自由に面会できるようにしている。家族、知人が多くみえられている。	○	職員が応接マナーについて学べる機会に参加する。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベット柵などの必要最低限の拘束はある。身体に及ぼす危険性などを考慮している。身体拘束廃止の取り組みについて勉強会を行った。	○	身体拘束廃止に向けた話し合い、取り組みを継続して行うようにする。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの外は坂道であり、その路面がかなり荒れている。転倒によるケガなどの危険性があるため、玄関のみ(日中、夜間とも)に鍵をかけている。「外に出たい」と希望があれば、付き添いながら外出を支援している。	○	できれば鍵はかけたくないが、ホームの外の状態を考えると、利用者の生命や身体に及ぼす危険性が高いため、現状の対策を継続する。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全ての利用者の行動について観察・予測することを心掛けている。目配りなどを常に行い、利用者の方には自由に過ごして頂いている。	○	朝昼夕の検温の他に10時、15時、夜間に巡回・配茶をしている。小まめに、さりげなく利用者の状況把握することを継続して行う。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬やライターなどはホームで預かるようにしている。はさみ等の刃物は危険がある場合は預かるようにしている。	○	洗剤や消毒液などについても、利用者の状況に配慮して保管方法を工夫する。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりに起こりうる危険性について話し合いを行って情報の共有に努めている。	○	アクシデント報告書やアセスメントの見直しを定期的に行うことを継続する。

グループホーム団欒 Aユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急処置の講習会に参加している。定期的な訓練や見直しは行っていない。	○	ホームで行う勉強会へ消防署の方をお招きして、講習会を行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	本年度は消防局の消防避難訓練に当施設を開放した。その際は、町内から代表して1名参加していただいた。また、地域のテレビ局や新聞社などで取りあげていただいた。	○	ホームで行う訓練にも、地域の方などに参加してもらえるように企画する。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	生活、体調などの利用者の現況を家族等に面会時や電話にて説明して理解をしていただくようにしている。	○	懇談会などを通して、もっと家族と思いを分かち合えるようにする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に観察し、また起床時、13時、16時と検温を行っている。気になる異変を発見した場合は、速やかに主治医と連絡するようにしている。	○	記録(ケース記録や業務日誌)を工夫して、経過観察がしやすいように活用する。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については一包化をかかりつけ薬局にさせていただいている。また薬について勉強会や薬の管理の仕方を工夫するミーティングを行っている。	○	今後とも、誤薬や飲み忘れがないように薬を取り扱う場合は、細心の注意を払うように職員間で徹底する。また薬の変更時などは申し送りを何度もするようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事時、おやつ時以外にも起床時、寝る前には、水分を補給をうながす声かけをしている。便通剤が必要な方の排便経過の申し送りは毎朝行っている。	○	便秘の予防と対応について、勉強会などで知識を深めて、体操やレクリエーションに活用する。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを支援している。歯科による2回/週の訪問口腔ケアを受けている。また毎日の義歯消毒も行っている。	○	口腔ケアについて知識を深める。

グループホーム団楽 Aユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアメモ及び経過表により食事摂取量、また場合によって水分摂取量も観察するようにしている。	○	スタッフも同じものを検食をしている。メニューへの意見の提言などを通じて、利用者本位の食事提供に努める。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種、MRSA検査、大腸菌検査、また血液検査、尿検査、健康診断などを協力病院と連携して行っている。なお感染症予防のマニュアルを備えている。	○	マニュアルの定期的な確認を行う。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は調理加工されたものを外部より宅配を受け、湯せんをして食事提供している。食中毒・感染症についての講習会に参加を行って予防意識を持つように努めている。	○	まな板・包丁の熱処理などを継続する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	通勤車の駐車のを工夫し、玄関横の通路を広く確保している。また建物に側面する道路の舗装工事着工計画がすすんでいる。	○	通勤車の駐車のを工夫する。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感はまだあまり感じられない。	○	季節の花や、写真やスケッチなどにより、季節感や開放感を味わえるように工夫する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にて、気のあった方同士で談話を自由に楽しませている。	○	玄関先に設置しているベンチなどを利用するなどして、いろいろな過ごし方を支援する。

グループホーム団欒 Aユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや毛布など入居前に使用していた物の持ち込みを自由にしている。	○	家族など親しみ深い方の写真を飾ったり、模様替えを行うなど様々な工夫して落ち着いた環境づくりを行う。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室は冷暖房機完備となっている。	○	利用者に不快な思いをさせない事を第一に考えながら換気などを、もっと配慮する。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内での転倒が多くあり、転倒の恐れが高い方の居室内に手すりを設置するなど行いながら支援している。	○	今後も利用者の状況に応じて対応する。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には表札をか掲げ、トイレやお風呂などの共用する場所も分かり易くしている。	○	新しく入られる方などにも親切な対応ができるように、職員間で話し合いを行い取り組む。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベンチを設置して、開放感を楽しめるように支援している。	○	もっと多く活用し、たくさんの人が楽しめるようにする。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム団欒 Aユニット

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)